

三橋節子美術館 開館30周年記念企画展

絶筆・余呉の天女への軌跡



「余呉の天女」(1975年1月) 京都府蔵

令和7年5月27日(火)~7月27日(日)

- 休館日 月曜日 ※ただし、7月21日(月)は開館、22日(火)休館
- 開館時間 9時~17時(入館は16時30分まで)
- 観覧料 一般 330円(260円) 高大生 240円(190円) 小中生 160円(130円)
市内在住65才以上 160円(130円)
※()は15名以上の団体料金

長等創作展示館・三橋節子美術館

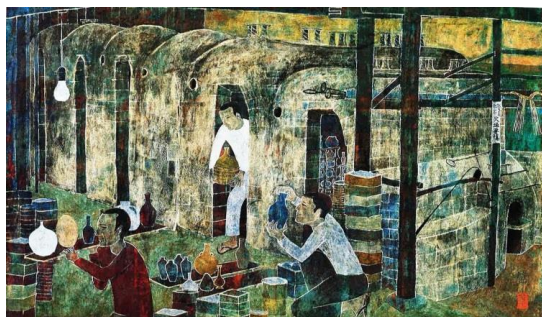
NAGARA CRAFTS PAVIRION

MITSUHASHI SETSUKO ART MUSEUM

主催：大津市



「裏山の収穫」(1972年1月)
京都府蔵



「陶器登り窯」(1972年8月)
京都府蔵



「菩提樹」(1973年6月)

長等創作展館・三橋節子美術館は、平成7年5月27日に大津市民の文化芸術活動の拠点として開館し、令和7年5月に開館30年を迎えます。

三橋節子の作品テーマは、初期の樹木や野草から、インドと東南アジアへの研修旅行をきっかけに人物画へ、そして晩年の「近江むかし話」を中心とした物語絵へと移行します。

その中で、1973年1月作画の「湖の伝説」以降、節子の作品画中には幾度と朱色の着物の女性が描かれます。その女性の表現は、病で幼子を残して逝かなければならない彼女自身の境地と重なります。

この度、当館所蔵作品と共に、京都府が所蔵している作品6点を特別に展示いたします。節子晩年の作品を中心に、「湖の伝説」から絶筆「余呉の天女」まで、節子の心の軌跡を感じていただければ幸いです。



「湖の伝説」(1973年1月)
京都府蔵



「三井の晩鐘」(1973年9月)



「羽衣伝説」(1974年3月)



「三井の晩鐘」(1974年4月)

三橋節子 プロフィール

1939年、大阪の祖父の病院で生まれた節子は京都市左京区に暮らし、幼少の頃より花や草、虫、鳥などの好きな子であった。高校卒業後、京都市立美術大学(現 京都市立芸術大学)日本画科へ進み、上村松堂、奥村厚一、秋野不矩、石本正らの教えを受け、在学中より新制作展に入選し以降毎年出品した。学生時代は山登りを好み、陶器づくり、織物、七宝、彫金を手掛け、幅広く趣味を持った。

1967年、インド・カンボジアへの研修旅行に参加、その翌年1968年に結婚し、大津市長等の地での暮らしとなり、その後一男一女に恵まれ、幸福かつ充実した時期を迎えた。

1973年1月、右肩鎖骨腫瘍が判明、3月に利き腕の右腕を切断する。それでも1か月足らずのうちに左手で文字を書き、スケッチの練習を始め、6月の退院後作品の制作に取り掛かり、9月には左手で描いた最初の大作2点「三井の晩鐘」と「田鶴来」を新制作展に出展した。その後12月に肺への転移が見つかり再手術となるが、翌年回復の見込みのないままに退院し、残された時間も制作活動に励み、1975年1月、3度目の入院中に制作した「余呉の天女」が絶筆となった。

1975年2月24日転移性肺腫瘍のため死去。享年35歳であった。



長等創作展示館・三橋節子美術館

NAGARA CRAFTS PAVIRION MITSUHASHI SETSUKO ART MUSEUM



〒520-0035 滋賀県大津市小関町1-1(長等公園内)

TEL/FAX 077-523-5101

■ 公共交通機関 京阪電車京津線「上栄町」下車 徒歩約10分
JR琵琶湖線「大津駅」下車 徒歩約20分